

経済・金融 フラッシュ

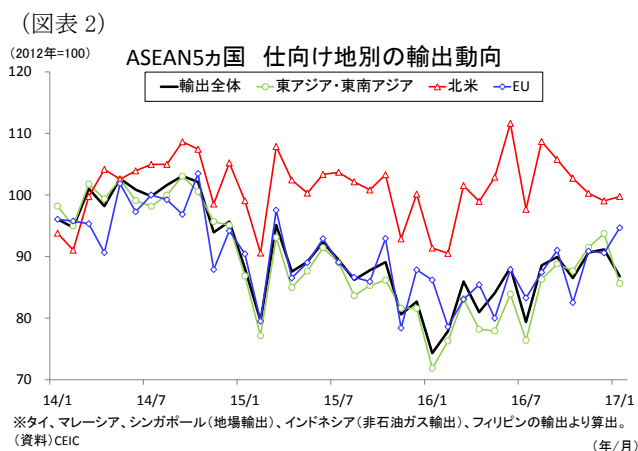
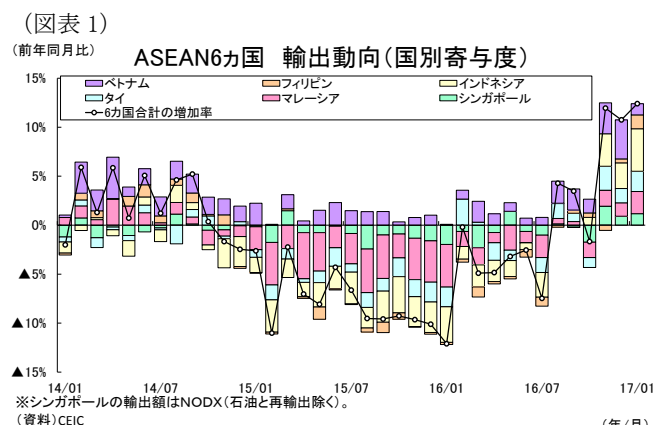
【東南アジア経済】 ASEANの貿易統計(3月号) ～3ヵ月連続の二桁増を記録

経済研究部 研究員 齊藤 誠

TEL:03-3512-1780 E-mail: msaitou@nli-research.co.jp

17年1月のASEAN主要6カ国の輸出（ドル建て通関ベース）は前年同月比12.4%増と、前月の同10.7%増から上昇した（図表1）。輸出は16年初から原油価格の底打ちや海外需要の緩やかな回復によって持ち直しに向かい、年末には資源価格の一段の上昇や電子機械の需要増を受けて加速して3ヵ月連続の二桁増を記録した。今後は短期的には高水準を維持するだろうが、これまでの資源価格の上昇要因が剥落するなか、輸出の伸びも一桁台まで鈍化していくものと予想する。

なお、ASEAN5カ国の仕向け地別の輸出動向を見ると、1月は中華圏の春節の影響で営業日数が少なかった東アジア・東南アジア向けが鈍化したものの、昨年後半に伸び悩んでいた米国向けが再度上昇するとともに欧州向けが堅調に増加した（図表2）。

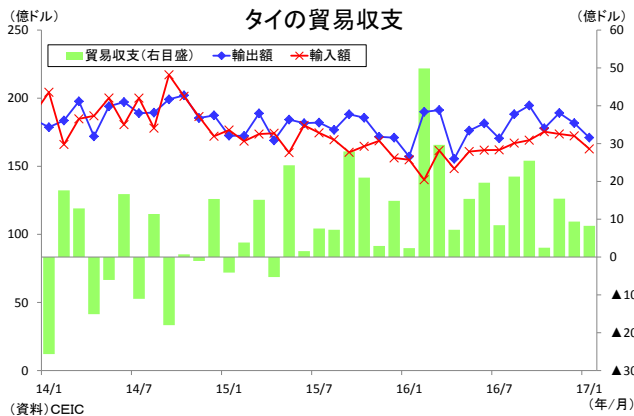


タイの17年1月の輸出額は前年同月比8.8%増と、前月の同6.2%増から上昇し、3ヵ月連続のプラスとなった。輸出の伸びは上下に大きな振れを伴いながら、16年から資源価格の上昇を受けて緩やかに持ち直し、足元ではIC製品や中国向けの石油製品、ゴム製品、ソーラーパネルなどが伸びており、回復基調が鮮明になっている。一方、輸入額は前年同月比5.2%増と、前月の同10.3%増から低下した。結果、貿易収支は8.3億ドルの黒字となり、前月から1.1億ドル黒字が縮小した（図表3）。

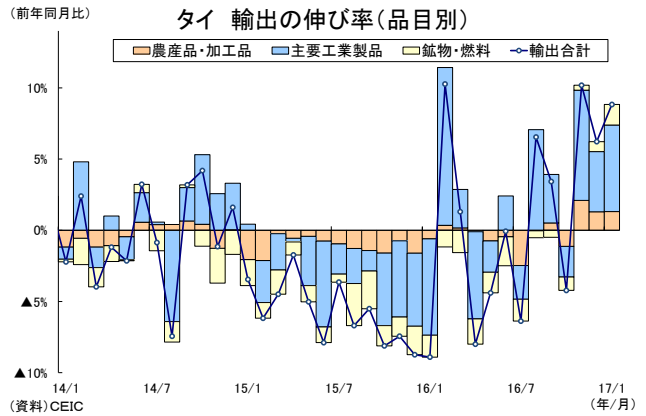
輸出を品目別に見ると、全体の約8割を占める主要工業製品は同7.6%増と、前月の同5.4%増から上昇し、3ヵ月連続のプラスとなった（図表4）。工業製品の内訳を見ると、機械・装置（同1.0%減）こそ落ち込んだものの、石油化学製品（13.0%増）や自動車・部品（同3.7%増）、家電製品（同3.4%増）、電子機器（同1.4%増）など幅広い品目が増加した。また農産品・加工品も同7.5%増（前月：同7.0%増）と、ゴム（同62.5%増）やゴム製品（47.6%増）を中心に上昇した。さら

に、鉱業・燃料も同49.7%増（前月：同19.4%増）と、石油製品を中心に一段と上昇した。

（図表 3）



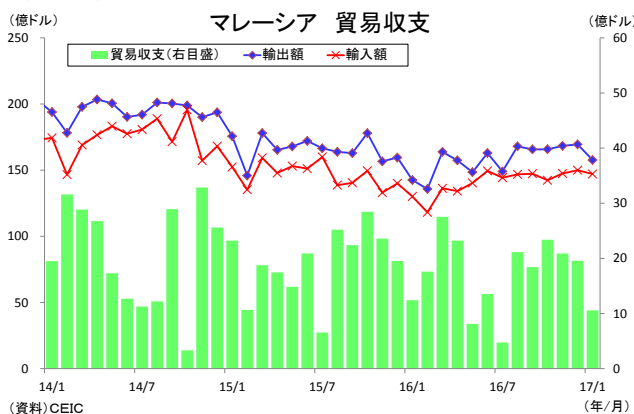
（図表 4）



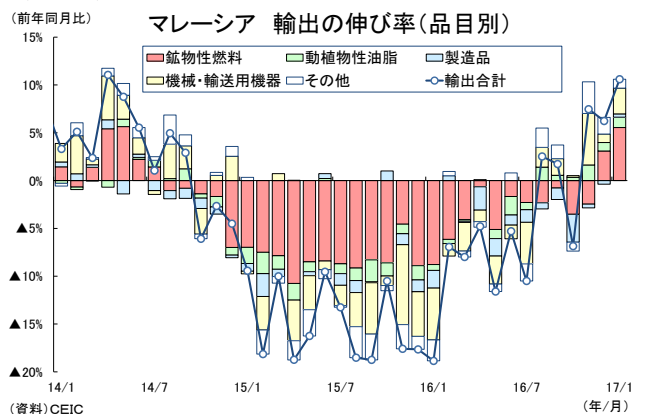
マレーシアの17年1月の輸出額は前年同月比10.6%増と、前月の同6.2%増から上昇し、2014年4月以来の二桁増を記録した。輸出の伸び率は16年初に資源価格が上昇に転じてから持ち直し、16年後半には主力の電気電子製品も増加に転じ、回復基調が鮮明になっている。一方、輸入額は前年同月比13.0%増と、前月の同7.1%増から上昇した。結果、貿易収支は10.6億ドルの黒字と、前月から9.0億ドル黒字が縮小した（図表5）。

輸出を品目別に見ると、全体の約4割を占める機械・輸送用機器は同6.2%増（前月：同2.0%増）と主力の電気・電子製品（同8.5%増）を中心に上昇した（図表6）。また動植物性油脂は同18.5%増（前月：同15.7%増）と、価格が上昇したパーム油・同製品（同16.5%増）を中心に上昇し、3ヵ月連続の二桁増となった。一方、鉱物性燃料は同41.4%増と、価格上昇に加えて数量ベースの増加も追い風となり、2014年7月以来のプラスを記録した前月（同22.1%増）から一段と大きく上昇した。なお、製造品は同3.8%増（前月：同3.9%減）と、価格が上昇したゴム手袋（同8.1%増）を中心に上昇し、11ヵ月ぶりのプラスとなった。

（図表 5）

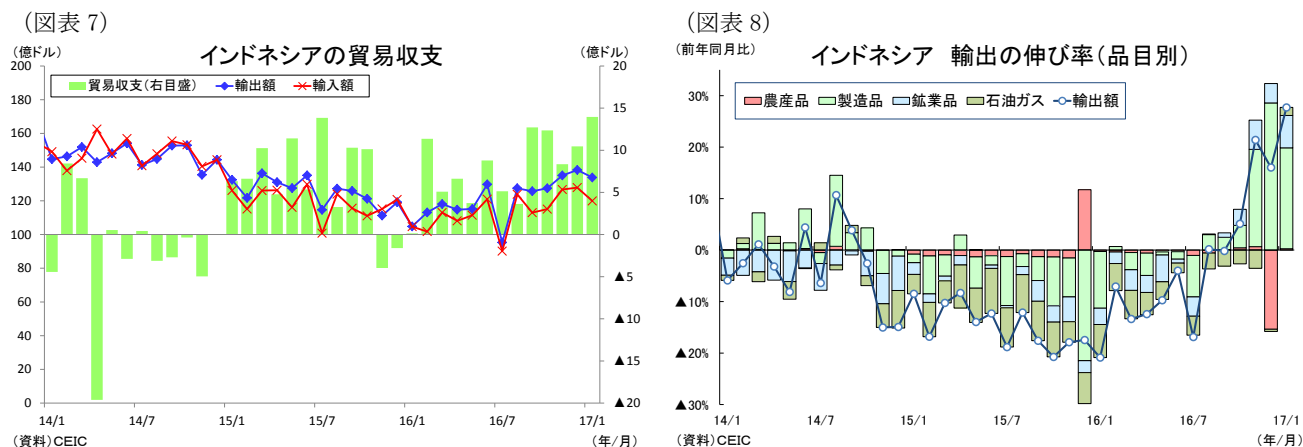


（図表 6）



インドネシアの17年1月の輸出額は前年同月比27.7%増と、前月の同16.0%増から上昇して3ヵ月連続の二桁増を記録した。輸出は16年前半から原油価格の底打ちを受けて緩やかに持ち直し、年後半には数量ベースでも増加に転じた。さらに年末には一次産品価格が一段と上昇し、輸出が急伸びしている。一方、輸入額は前年同月比4.5%増（前月：同6.5%減）と上昇し、2ヵ月ぶりのプラスとなった。結果、貿易収支は14.0億ドルの黒字と、前月から3.5億ドル黒字が拡大した（図表7）。

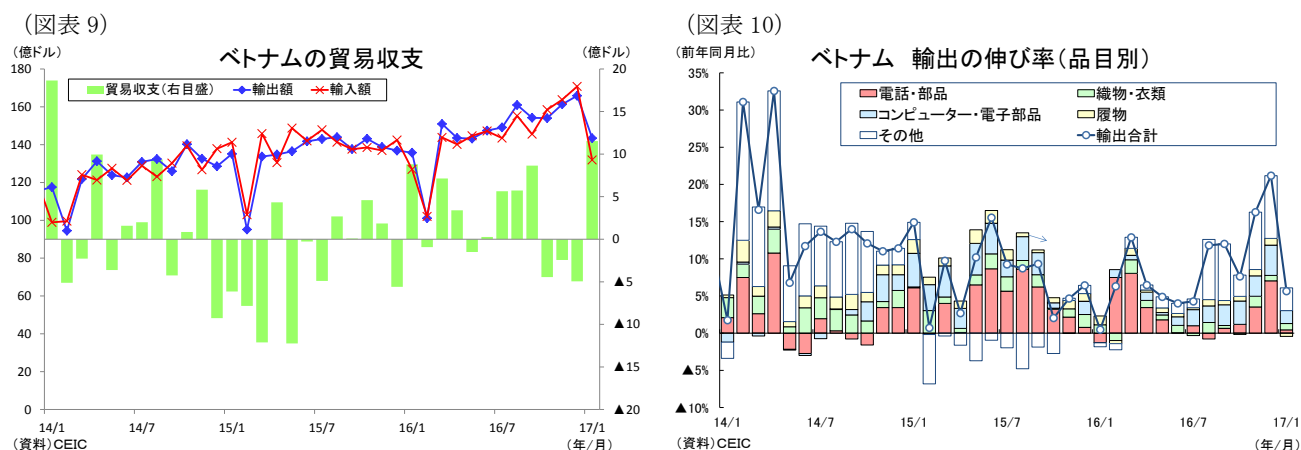
輸出を品目別に見ると、まず石油ガスが同14.8%増（前月：同3.8%減）と上昇し、2014年9月以来のプラスに転じた（図表8）。次に非石油ガスを見ると、輸出全体の7割を占める製造品は同26.3%増と、パーム油が好調で高水準を維持したものの、前月の同50.8%増から低下した。一方、鉱業品は同50.4%増と、前月の同27.5%増から一段と上昇して4ヵ月連続の二桁増を記録した。さらに農産品についても同11.6%増と、前月の同83.6%減から大きく上昇した。



ベトナムの17年1月の輸出額は前年同月比5.7%増（前月：同21.2%増）と低下した。輸出の伸び率は、16年初は伸び悩んでいたものの、年後半には主力の電気・電子製品を中心に勢いを取り戻して政府目標（前年比10%増）を上回る傾向が続いたが、1月はテト（旧正月）に伴う休暇のために伸び悩んだ。一方、輸入額は前年同月比3.9%増と、前月の同19.9%増から低下した。結果、貿易収支は11.5億ドルの黒字となり、前月から16.5億ドル増加して4ヵ月ぶりの黒字となった（図表9）。

輸出を品目別に見ると、輸出全体の約2割を占める電話・部品が同2.6%増（前月：同55.7%増）と大きく低下した（図表10）。また履物は同4.8%減（前月：同10.3%増）と低下し、11ヵ月ぶりのマイナスに転じた。一方、コンピュータ・電子部品は同18.7%増（前月：同42.6%増）と低下したものの、高い伸びを維持した。織物・衣類は同5.7%増（前月：同4.5%増）と小幅に上昇した。なお、食品についてはコメ（同33.8%減）が引き続き大きく減少した一方、ゴム（同73.4%増）、野菜（同16.2%増）、コーヒー（同3.5%増）など増加した品目が多かった。

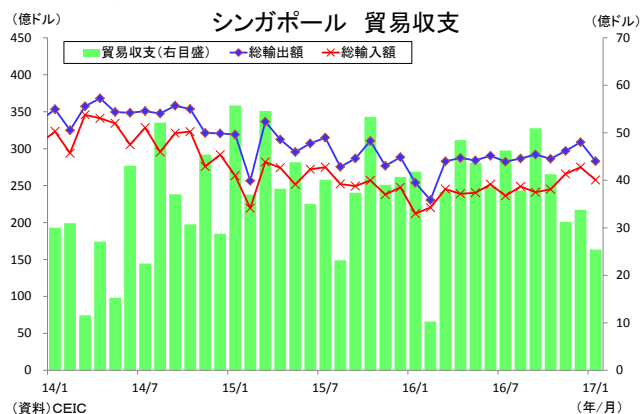
輸出を資本別に見ると、全体の7割を占める外資系企業が同7.8%増（前月：同26.8%増）、地場企業が同1.2%増（前月：同10.2%増）と、それぞれ低下した。



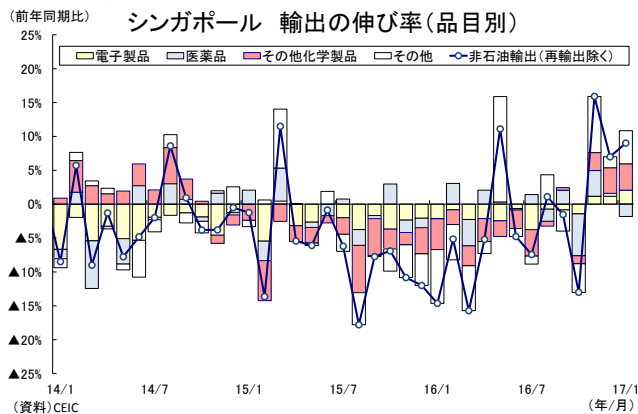
シンガポールの17年1月の輸出額（石油と再輸出除く）は前年同月比9.0%増と、前月の同7.0%増から上昇し、3ヵ月連続のプラスとなった。輸出の伸びは医薬品の変動が大きいために上下に振れているものの、基調としては16年初に資源価格の上昇を受けて持ち直し、年後半は主力の電子製品の需要が回復して増加傾向が続いている。なお、総輸出額は前年同月比11.5%増（前月：同7.0%増）、総輸入額は同21.4%増（前月：同11.0%増）と、それぞれ一段と上昇して高水準を記録した。結果、貿易収支は25.4億ドルの黒字と、前月から8.3億ドル黒字が縮小した（図表11）。

輸出（石油と再輸出除く）を品目別に見ると、まず全体の約3割を占める電子製品は同6.4%増と、前月の同3.6%増から上昇した（図表12）。電子製品の内訳を見ると、通信機器（同38.9%減）やPC（同28.8%減）、ダイオード・トランジスタ（同18.3%減）が減少する一方、IC（同32.0%増）やPC部品（同11.4%増）が増加するなど品目毎にバラつきがみられる。また電子製品と同じく全体の約3割を占める化学製品は同6.8%増と、前月の同17.5%増から低下したものの、堅調な伸びを維持した。化学製品の内訳を見ると、医薬品が同12.3%減（前月：同5.3%増）と下振れた一方、石油化学製品が同37.6%増（前月：同26.1%増）と一段と上昇した。このほか、その他製品は同13.0%増（前月：同3.7%増）となり、特殊機械（同104.7%増）や金（同30.7%増）を中心に上昇した。

（図表 11）



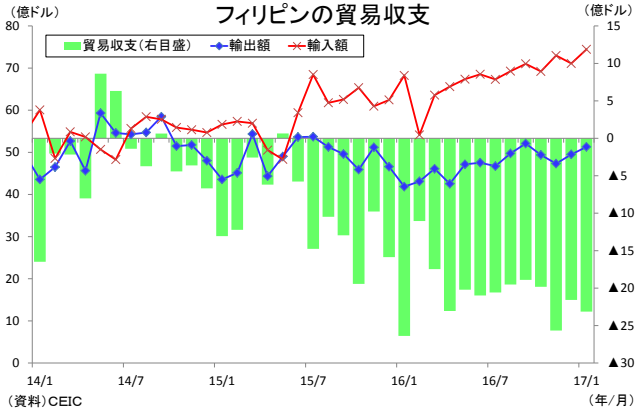
（図表 12）



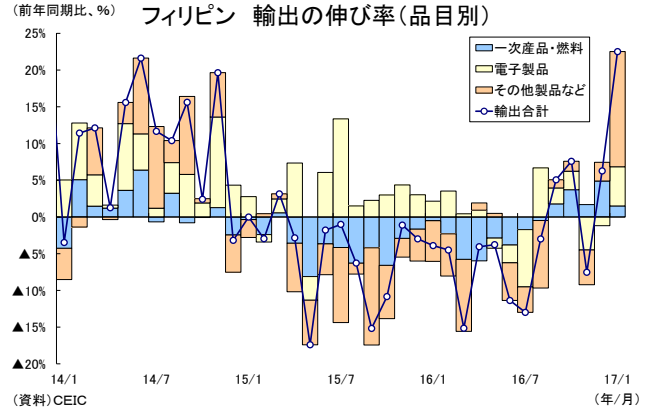
フィリピンの17年1月の輸出額は前年同月比22.5%増（前月：同6.3%増）と上昇し、2014年11月以来の二桁増を記録した。輸出額は16年から資源価格の上昇を受けて一次産品を中心に緩やかに持ち直しており、主力の電子製品とその他製品はやや不安定なうごきながらも改善傾向にある。一方、輸入額は前年同月比9.1%増と、前月の同13.8%増から低下したものの、依然として力強い内需を背景に高めの伸びが続いている。結果、貿易収支は23.1億ドルの赤字と、前月1.6億ドル赤字が縮小した（図表13）。

輸出シェア上位10品目を見ると、まず輸出全体の約5割を占める電子製品は同10.4%増（前月：同2.2%減）から上昇して3ヵ月ぶりのプラスに転じた（図表14）。電子製品の内訳を見ると、電気通信機器（同30.0%減）は昨夏をピークに減少傾向にあるものの、計測制御機器（同33.2%増）と半導体デバイス（同10.6%増）、電子データ処理機（同10.7%増）がそれぞれ大幅に増加した。その他9品目を見ると、アパレル（同270.1%増）とココナツ油（同229.6%増）、化学（同104.7%増）、金属部品（同66.3%増）、その他電子機械・部品（同64.8%増）、その他製造品（同58.8%増）、機械・輸送用機器（同27.9%増）が増加した一方、木工品・家具（同24.7%減）とイグニッション・ワイヤーセット（同5.0%減）が減少した。

(図表 13)



(図表 14)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。